

環境と人間Ⅲ

COP10 の意義、生物多様性

日時：平成22年8月21日（土） 10:00～15:00

講師：香坂 玲（COP10 支援実行委員会アドバイザー）

概況



◎生物多様性について(AM)

①生物多様性とは

生物多様性とは種・遺伝子・生態系の3つのレベルであり、さまざまな地域や大陸などの空間的な広がりの中に存在しているだけでなく、生命の進化や絶滅という変化を含んだものである。

②生物多様性がなぜ必要か？

人間だけでなく、色々な生物がいる中で生きていく上で生物資源を持続可能にする。生物多様性を一度壊してしまうと復元が難しい。あるいは、修復にお金がかかる。生物の種類によっては作ることが困難な場合があるので、そのために次世代に繋げることが大切である。

③生物多様性の価値について

生物は長い時間の結果、出現したものなので、短い時間で区切ってみてもわからないものである。環境が変わることで暑さに強い、寒さに強いなど気候に適応できる生物が生息し、長い経緯の中で生まれる生物は価値がある。

・生物多様性条約について

①生物多様性条約の目的

地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること。生物資源を持続可能であるように利用すること。遺伝資源の利用から生ずる利益をえこひいきせず、かつバランスよく配分すること。

②生物多様性の遺伝資源利用配分の取組

保全を比較的優先する先進国側と、持続可能な利用と自国資源の主権などを掲げる発展途上国側の遺伝資源のアクセスと利益配分の取組のビデオ紹介があった。

③生物多様性条約の歴史と展望

生物多様性条約では、条約全体の3つの目的を達成するためにも、期限をつけた目標を掲げ、各国が活動しています。2002年にバークで開催されたCOP6で採択され、2004年のCOP7において、実施のための戦略が採択された、「2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という目標がある。これは、2002年のヨハネスブルグ・サミットの実施計画にも盛り込まれている。

・模擬 COP10 について

先進国であるドイツ・中国と発展途上国であるブラジルと市民の立場である NGO のグループに分けて、食物のバイオ燃料化といった課題で討論し、それぞれの立場による主張で発言を行うといった経緯を踏んで模擬 COP10 を体感した。

◎海上の森生物多様性みて歩き(PM)

山本氏と間宮氏を講師に招き、平成 22 年 9 月 12 日(日)に行われる生物多様性体感ツアーと同じ経路を歩き、里での再生活動の現場や、生物多様性観察ポイントなどを見学し、森林・里山の生物多様性を体感した。